

## 経年評価をふまえた授業の改善点

技術教育・福山隆雄

### 1. はじめに

本授業は、1 回生向けに開講される教科専門科目である。初年次科目とともに、大学での学び、技術教育での学習、そして将来の進路を動機づける出発点にあたる科目のひとつであるといっても過言ではないだろう。それだけに、教科専門の知識を教授するだけに終始するのではなく、技術教育への関心を引き出すことも念頭に入れなければならない。本授業評価報告書では、昨年度（19 年度）と今年度（20 年度）における学生の授業評価を比較することで、これからの授業の改善点について考えたい。

### 2. 本授業の目的

本授業は、中学校教員免許状（技術）の取得に必修である。中学校技術分野の指導で特に中心となる、木質材料の特性と木材加工のための工具について学び、実践の時に必要となる観察力や基礎能力を身につけることを目的とする。

### 3. アンケートの調査内容

調査項目を以下に述べる。共通教育のアンケートを参考に作成されている。

#### I. 授業の内容に関する質問

[a 目的・目標の理解] この授業の目的・目標をよく理解できた。

[b 進度・時間配分] 授業の進度および毎回の授業における時間配分は適切であった。

[c シラバス] 授業はシラバスに則して行われた。

#### II. 担当授業者の授業方法に関する質問

[a わかりやすさ] 教員の説明の仕方は分かりやすかった。

[b コミュニケーション] 発言や質問の機会が適切に与えられ、教員はそれにきちんと対応していた。

[c 教員の意欲・熱意] 教員の授業に対する意欲・熱意を感じた。

[d 視聴覚教材] 黒板，メディア（パソコン，ビデオ，CD など）の使い方は効果的であった。

[e 教科書・プリント] 教科書，プリントの使い方は効果的であった。

#### III. 学生自身に関する質問

[a シラバス] この授業の受講に際し、シラバスを読んだ。

[b 学習態度] 質問をするなどして、授業に積極的に取り組んだ。

#### IV. 授業全体に関する質問

[a 改善度] 教員は学生の意見を取り入れるなどして、授業を改善するように努力していた。

[b 目的・目標達成度] この授業の目的・目標は達成された。

[c 満足度] この授業は全体として満足のいくものだった。

[d 関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について、関心・興味がわいた。

#### V. その他の質問

[a レベル] 授業のレベルは適切でしたか。

① 難しすぎた，② やや難しかった，③ 丁度よかった，④ やや簡単だった，⑤ 簡単すぎた

[b 出席状況] この授業への出席状況はどのくらいでしたか。

① 全部出席，② 1-2 回欠席，③ 3-4 回欠席，④ 5 回以上欠席

[c 授業時間外学習] この授業に関連して授業時間外の学習は、1 回の授業ごとにどれくらいしましたか。

① 2 時間以上，② 1 時間～2 時間，③ 30 分～1 時間，④ 30 分未満

### 4. アンケートの調査結果

3 で述べた各調査項目についての結果を以下に示す。I～IV については 10 点を満点として評価の規格化を行い（点数が高いほど肯定的な回答をした割合が高い），V についてはそれぞれ，Va：点数が高いほど丁度よいと回答した割合が高い，Vb：点数が高いほど出席率が高い，Vc：点数が高いほど授業時間外学習の時間が長い，となっている。

表1：アンケート結果（評価：各10点満点）  
（平成19年度，回答数：6）

| 項目    | 評価   |
|-------|------|
| I a   | 7.78 |
| I b   | 6.67 |
| I c   | 6.67 |
| II a  | 8.33 |
| II b  | 7.22 |
| II c  | 7.78 |
| II d  | 6.11 |
| II e  | 8.33 |
| III a | 6.67 |
| III b | 6.11 |
| IV a  | 6.67 |
| IV b  | 7.22 |
| IV c  | 8.33 |
| IV d  | 7.78 |
| V a   | 9.17 |
| V b   | 7.78 |
| V c   | 0.56 |

表2：アンケート結果（評価：各10点満点）  
（平成20年度，回答数：13）

| 項目    | 評価   |
|-------|------|
| I a   | 7.18 |
| I b   | 7.18 |
| I c   | 7.69 |
| II a  | 8.21 |
| II b  | 8.21 |
| II c  | 8.46 |
| II d  | 7.18 |
| II e  | 7.95 |
| III a | 4.87 |
| III b | 5.13 |
| IV a  | 6.67 |
| IV b  | 7.18 |
| IV c  | 7.69 |
| IV d  | 7.69 |
| V a   | 7.69 |
| V b   | 6.67 |
| V c   | 3.08 |

表3：アンケート比較結果  
（“20年度の値”引く“19年度の値”）

| 項目    | 変化    |
|-------|-------|
| I a   | -0.60 |
| I b   | +0.51 |
| I c   | +1.02 |
| II a  | -0.12 |
| II b  | +0.99 |
| II c  | +0.68 |
| II d  | +1.07 |
| II e  | -0.38 |
| III a | -1.80 |
| III b | -0.98 |
| IV a  | 0     |
| IV b  | -0.04 |
| IV c  | -0.64 |
| IV d  | -0.09 |
| V a   | -1.48 |
| V b   | -1.11 |
| V c   | +2.52 |

総和については，19年度が119.18，20年度が118.73ということで，僅差である。

## 5. 経年評価をふまえて

総和ではあまり変化が見られない。項目ごとに見ていくと，昨年度に比べて評価が高かったものが，シラバス通りの授業，コミュニケーション，視聴覚教材，授業時間外学習である。逆に昨年度に比べて評価が低かったものが，シラバスを読んだか，目的・目標達成度，授業のレベル，出席状況である。昨年度よりレポートを多く課したため，時間外学習が増えたと考えられる。一方で，目的・目標達成度をもっと高める努力が必要である。

## 6. まとめ

学校教員養成という文系の課程に所属し，理系の専門教育がスカスカの現在，中学校はもちろん小学校においても，魅力ある理系の授業をできる教員の養成は難しく，このままでは将来にわたって負の連鎖を生じるだろう。小学校でも魅力ある教科の授業をするためには，教科の専門力が必要だ。理系の学力は，パラパラとつまみ食いの勉強しても，つくものではない。学生が真摯に教科に向き合うように，今回の経年評価を通して明らかになった改善点をふまえて，これからも不断の努力のもと，厳しく毎回の授業に臨みたい。